

文法重要事項

1. 文の要素と5文型

英語の文では、語順が極めて重要である。英語の語順の基本パターンは、5つあり、これを「5文型」という。

1) 文の要素と文型

文型とは、文の仕組みを主語(S)・動詞(V)・目的語(O)・補語(C)の4つの要素で表示したものである。

主語(S:Subject)	「～は」「～が」にあたる語
動詞(V:Verb)	「～である」「～する」にあたる語
目的語(O:Object)	「～を」「～に」にあたる語
補語(C:Complement)	動詞の意味を補い、主語や目的語を説明する語

英語のほとんどの文は、上記の4要素の組み合わせで次の5つの文型に分類することができる。

- (1) SV : V① (主語+動詞) (～はする)
- (2) SVC : V② (主語+動詞+補語) (～は～である)
- (3) SVO : V③ (主語+動詞+目的語) (～は～をする)
- (4) SVOO : V④ (主語+動詞+目的語+目的語) (～は～に～をする)
- (5) SVOC : V⑤ (主語+動詞+目的語+補語) (～は～を～とする)

複雑な長い英文でも、基本的には上の5文型のどれかにあてはまり、そこに修飾語句がついたもの。(ただし、5文型にあてはめにくい There is ～. や It is … to ～. のような特殊な文型もある。)

英語では、主語と動詞のあとにどの要素をどういう順序で並べるかということが、5つのパターンに集約される。それぞれの文型は、下記の通り。

2) 5文型の説明

(1) 第1文型 (SV : V①) 主語と動詞(補語のつかない自動詞:完全自動詞)からなる文で、ほとんどの文は、動詞の後ろに副詞などの修飾語を伴う。修飾語は文の要素には含まれない。

It sells well. (それはよく売れている。)

S V 副詞 (sells を修飾)

主語と動詞だけでは意味を伝えることができない場合は、下記のように情報を動詞

の後に付け加える。

We are looking for reliable partners. (我々は、信頼できるパートナーを探している。)

上記の動詞 look だけでは出せない意味を表すために動詞に前置詞 for が付け加えられた動詞で、これを群動詞という。例えば、下記の通り。

動詞＋前置詞 (他動詞の働きをする) : call on (～を訪ねる) deal with (～を扱う) look at (～を見る) look into (～を調査する) hear from (～から連絡をもらう) ask for (～を求める) wait for (～を待つ)

動詞＋副詞 (自動詞の働きをする) : break down (故障する) go on (続く) look out (気をつける) run away (逃げる) set out (出発する) show up (現れる)

動詞＋副詞＋前置詞 (他動詞の働きをする) : look forward to (～を楽しみに待つ) do away with (～を廃止する) catch up with (～に追いつく) put up with (～に耐える) run out of (～を使い果たす) make up for (～の埋め合わせをする)

(2) 第2文型 (SVC : V②) 主語、動詞 (補語のつく自動詞 : 不完全自動詞)、補語からなる文で、この文では、「主語＝補語」の関係が成り立ち、補語は主語を説明している。補語になるのは、名詞 (句)、形容詞 (句)、副詞 (句)、準動詞などである。代表的な動詞は be 動詞であるが、その他にも become (～になる) feel (～のように感じる) look (～のように見える) sound (～のように聞こえる) smell (～の匂いがする) taste (～の味がする) remain (～し続ける) などがある。

He is an exporter of petrochemicals. (彼は石油化学品の輸出業者である。)

S V C 形容詞句(an exporter を修飾) <He=an exporter の関係>

This product is useful. (この製品は役に立つ。)

S V C <This product=useful の関係>

He became an exporter of petrochemicals. (彼は石油化学品の輸出業者になった。)

S V C <He=an exporter の関係>

(3) 第3文型 (SVO : V③) 主語、動詞、目的語からなる文で、目的語は動詞のあとに置かれる。目的語だけで補語がつかないので、完全他動詞という。

He imports the products from the United States. (彼は米国からその製品を輸入している。)

S V O 副詞句(imports を修飾) (He≠the products)

He thinks (that) English is interesting. (彼は英語はおもしろいと思っている。)

S V O (名詞節) (He ≠ that ...)

(4) 第4文型 (SVOO: V④) 主語と動詞 (授与動詞) のあとに「～(人)に」「…(物)を」の2つの目的語がくる文。

I showed her the picture. (私は彼女にその写真を見せた。)

S V O O

最初の目的語「人」(間接目的語)、その後の目的語が「もの」(直接目的語)という順番になる。V④の動詞は、show 以外に下記のものがある。

allow (与える) give (与える) hand (手渡す) offer (提供する) pay (支払う) quote (見積もる) sell (売る) send (送る) teach (教える) tell (告げる) など。

(5) 第5文型 (SVOC: V⑤) 主語と動詞のあとに目的語と補語がくる文で、この文では、「目的語=補語」の関係が成り立ち、補語は目的語を説明している。補語がつくので不完全他動詞という。

補語になるのは原則として名詞、形容詞であるが、準動詞の場合もある。

We call him John. (私たちは彼をジョンと呼ぶ。)

S V O C <him = John の関係>

They made the room warm. (彼らはその部屋を暖かくした。)

S V O C <the room = warm の関係>

He made me work. (彼は私を働かせた。)

S V O C <me = work の関係>

He let me eat. (彼は私に食べさせてくれた。)

S V O C <me = eat の関係>

We ask you to put our name in your trade bulletin. (当社の名前を貴社の会報に掲載していただきたい。)

S V O C <you = to put our name in your trade bulletin の関係>

We had our picture taken. (我々は自分たちの写真を撮ってもらった。)

S V O C <our picture = taken の関係>

I saw the boy fall down. (私はその男の子が転ぶのを見た。)

S V O C <the boy = fall down の関係>

2. 述語動詞と準動詞

1) 述語動詞

述語は、「～する」「～である」に当たる言葉で、主語の直後に置かれる。述語の部分には、原則として動詞が使われるので、述語動詞といわれる。(can, may, willなどの助動詞がついていても述語動詞といわれる。)述語動詞は、純粹に動詞の働きだけをしている(一人一役)のに対して、下記の準動詞は、一人二役(動詞とそれ以外の働き)をしている。

2) 準動詞

不定詞、動名詞、分詞、分詞構文のことをまとめて準動詞という。これらは、動詞の形をいろいろと変化させることによって、動詞の働きとそれ以外のさまざまな品詞の働きを同時にさせることができる。つまり、一つの動詞が二役をこなすことができる。

(1) 不定詞

動詞を to V という形に変え、動詞の働きの他に名詞や形容詞や副詞の働きもさせることができる。

①名詞の働き

It is mutually beneficial for us to start business as soon as possible. (早急に取引を開始することはお互いに有益である。) n/V③ O

注：前の n は noun(名詞)で、仮主語 it の真主語を表し、後の V③は第3文型を表す。

②形容詞の働き

You are in a position to introduce some companies. (あなたは、いくつかの会社を紹介する立場にある。) a/V③ O

注：前の a は adjective(形容詞)で、前の position を修飾していることを表し、後の V③は第3文型を表す。

③副詞の働き

We are writing to draw your attention to our order. (当社の注文への注意を促すために手紙を書いている。) ad/V③ O

注：前の ad は adverb(副詞)で、前の writing を修飾していることを表し、後の V③は第3文型を表す。

(2) 動名詞

動詞を Ving という形に変え、動詞の働きと名詞の働きをさせる。

We would appreciate your sending us a sample of this merchandise. (この商品のサンプルをお送りいただければ幸甚です。) n/V④ O O

注：前のnはnoun(名詞)で前のappreciateの目的語を表し、後のV④は第4文型を表す。

(3) 分詞

動詞を現在分詞や過去分詞に変え、名詞の前または後に置いて動詞の働きと形容詞の働きをさせる。

①現在分詞

Please let us know the manufacturing company of our order. (わが社の注文品の製造会社をお知らせいただきたい。) a/V①

注：前のaはadjective(形容詞)で、後のcompanyを修飾していることを表し、後のV①は第1文型を表す。

We are a Japanese exporter handling general merchandise. (我々は日用雑貨を扱っている日本の輸出業者である。) a/V③ O

注：前のaはadjective(形容詞)で前のexporterを修飾していることを表し、後のV③は第3文型を表す。

②過去分詞

The goods must be sent to the address indicated in the order sheet. (商品は、注文書に指示されている住所に送られなければならない。) a/V-③

注：前のaはadjective(形容詞)で、前のaddressを修飾していることを表し、後のV-③は第3文型動詞の過去分詞を表す。

My sister given a cashmere sweater for her birthday looked very happy. (誕生日にカシミアのセーターをもらった妹は大変幸福そうに見えた。)

a/V-④ O

注：前のaはadjective(形容詞)で、前のsisterを修飾していることを表し、後のV-④は第4文型動詞の過去分詞を表す。

The latest product named BluRey is well received in Japan. (BluReyと命名された最新製品は、日本で好評である。) a/V-⑤ C

注：前のaはadjective(形容詞)で、前のproductを修飾していることを表し、後のV-⑤は第5文型動詞の過去分詞を表す。

(4) 分詞構文 動詞を現在分詞や過去分詞に変え、動詞の働きと副詞の働きをさせ

る。

①現在分詞構文

Knowing the story, I could not enjoy the movie. (話を知っていたので、私は、映画を楽しめなかった。)

ad/V③ O

注：前の ad は adverb (副詞) で、主節の could not enjoy を修飾していることを表し、後の V③は第 3 文型を表す。

②過去分詞構文

Damaged by the storm, the bridge is not usable. (嵐による被害を受けて橋は使い物にならない。) ad/V-③

注：前の ad は adverb (副詞) で、主節の is not usable を修飾していることを表し、後の V-③は第 3 文型動詞の過去分詞を表す。

3. 関係代名詞

関係代名詞は、名詞を文で説明するとき、説明文の存在と開始点を示すための言葉である。名詞があってそれを説明する文がその後に続く。つまり、「名詞」+「名詞を説明する文」となり、前者の「名詞」を先行詞といい、後者の「名詞を説明する文」を形容詞節（関係詞節）という。関係代名詞には who, which, that があり、それぞれに主格、所有格、目的格があり、通常「名詞を説明する文」の先頭に置かれる。

1) 関係代名詞の主格

①You would locate an agent who would sell your product. (御社は自社製品を販売する代理店を探し出すであろう。)

②A quota is a limit on the goods that go into a country. (割当は、ある国に入ってくる商品を制限するものである。)

関係代名詞の主格の後ろには、動詞が置かれ、「関係代名詞 + 動詞」という形で、直前の名詞を修飾・説明する。

例文①では、who would sell your product. という「関係代名詞 + 動詞」の部分が直前の an agent という先行詞を修飾している。

また、例文②では、that go into a country という「関係代名詞 + 動詞」の部分が直前の the goods という先行詞を修飾している。

関係代名詞の主格の用法では、先行詞が人間を表す場合は「who + 動詞」の形を使

い、先行詞が物の場合は「which + 動詞」の形を使う。who, which どちらの関係代名詞も that に置き換えることができる。

2) 関係代名詞の所有格

Did you see the exporter whose products had been well received in the US? (あなたは製品が米国で好評を博した輸出業者に会ったか。)

関係代名詞の所有格は、先行詞が持っているもの、つまり所有物を修飾・説明したい場合に用いられる。所有格の関係代名詞は、先行詞が物でも人でも whose となる。まず、関係代名詞 whose の後ろに先行詞の所有物を置く。例文では、先行詞の the exporter(輸出業者)の所有物である products(製品)が置かれている。(詳細は後述。)

3) 関係代名詞の目的格

①That is the man (whom [that]) we respect very much. (あれは、私たちが大変尊敬している男性だ。)

②Did you bring the pictures (which [that]) you took yesterday? (昨日あなたが撮った写真を持ってきたか。)

目的格の関係代名詞の直後には節が置かれるが、先ず第 1 のルールとして、この節は必ず、他動詞や前置詞の目的語が抜けている不完全な文でなければならない。

例文①で、関係代名詞の後ろにある節では、respect という他動詞が使われている。しかし、respect という他動詞の後ろには目的語がない。つまり、この文は不完全な文である。

第 2 のルールは、このような名詞が抜けている個所に先行詞を挿入すると完全な文になるということである。

例文①の先行詞を目的語が抜けている個所に入れると、we respect the man very much. という正しい文が完成する。

例文②でも、目的格の関係代名詞の後ろを見ると、took という他動詞の後ろは目的語が抜けている。ここに、先行詞の the pictures を挿入すると、You took the pictures yesterday. という完全な文が成立する。

関係代名詞の目的格を使った文では、必ずこうした 2 つのルールが成立しなければならない。目的格の関係代名詞は、先行詞が「人」の場合 whom、「物」の場合 which であるが、多くの場合、これらは省略され、省略されない場合でも that (「人」および「物」の双方に使用) を使うのがより自然な英語とされている。ただ、関係代名詞が

省略されても、2つのルールは変わらないので、省略を見抜き、そこに関係代名詞を補って考えるようにする。

4. 基本的な関係副詞

①This is the place where he had the accident yesterday. (ここは彼が昨日事故に遭った場所だ。)

②Do you know the reason why she was absent? (あなたは、彼女が欠席した理由を知っているか。)

関係副詞は、関係代名詞と同じように、後ろに節を置いて直前の先行詞を修飾・説明することができる。関係副詞には where、when、why などがあり、先行詞によって使い分けられる。関係代名詞と異なるのは、関係副詞の直後には必ず「完全な文」が置かれなければならないことである。

例文①では、where の後ろの文には他動詞や前置詞の目的語が抜けているところはなく、完全な文が続いているのがわかる。関係副詞は、先行詞が「場所」の場合は where を、「時」の場合は when を使う。ただ、where の前の先行詞が the place(場所)であったり、when の前の先行詞が the time(時)であったりする場合、わかりきっている先行詞を省略することがよくある。例文①では、「場所」とわかりきっている the place を省略して、This is where he had the accident yesterday. となることがある。例文②のように、先行詞が the reason(理由)の場合には、why という関係副詞を使う。